

2024 年度 静進情報高等専修学校
自己点検・評価項目および評価報告書

1. 教育理念・目標

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価	現状の問題点	改善のための方策	評価	関係者の意見
教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	4			4	
教育目標は卒業時の到達が読みとれるものになっているか	4			4	
教育理念並びに教育目標は定期的に見直されているか	4			4	
教育理念並びに教育目標が教職員・生徒に浸透しているか	4			3	これまでの常識や価値観の変化をどこまで受け入れて対応していくのか。「時代」と言われればそれまでだが、昨今の「多様性」もまだ黎明期の様相。現在叫ばれている多様性には社会性とは相反するものも多々見受けられる。学校としては覚悟を持って指導していく必要がある。

2. 教育活動

評価項目	評価	現状の問題点	改善のための方策	評価	関係者の意見
カリキュラムは教育目標が反映されているか	3	柔軟に対応できるようなカリキュラムを組んでいるが、生徒の習熟度の幅が広く、学習以前の生活面において問題を抱える生徒もおり、完全には対応できていない。	今、その生徒が何を求めているのか、を敏感に察知し、提供できる感性を磨くことが重要。また、生徒を最終的にどこに導きたいのかというビジョンを持ち、常に軌道修正していく。	3	<p>これまでマンパワーに頼っての授業展開が多くを占めてきた。これからは情報を共有し財産（授業計画、展開、レジュメ等）を次世代へと残す意識が必要。</p> <p>どのような形や方法で残していくか。まずは意識することが重要。さすれば資料の作り方や保存の仕方まで変わってくる。</p>
定期的なカリキュラムの見直しが行なわれているか	4			4	
テキストや教材は適切なものを選定しているか	3	選定教科書に依存することなく、オリジナルの教材作りにも力を入れてきたが、教科担当者のマンパワーに頼っている部分も大きい。引き続き、研究・改良が必要な分野である。	教科担当者の専門的な知識の深化や学びの喜びを引き出すための手法を研究し、生きた教材作りに反映させていくことが求められる。教員が常に勉強していく姿勢を作っていく。	3	
授業の点検・評価が適切に実施されているか	2	人手不足も相まって、授業研究や定期的な点検・評価というところまではなかなか手が回らない現状がある。	現状の授業スタイルに満足してしまっている面も否定できない。常に生徒たちの学習意欲や探求心に応えていける準備をしていく。	2	
資格試験の合格率は	2	PC関連の受験者数、合格率はまずまずといったところ。半面、漢字検定や英語検定の受験者が少ない。運転免許における合格率は高かった。	資格試験受験に向けて教員が生徒を口説き切れていない。資格取得に向けた教員の熱意と理解を高めていく必要がある。特に英検への挑戦者を増やしていきたい。	2	
資格試験不合格者の対策は	3	どういう状況で不合格となったのか、何が不足していたのか等を個別に点検しきれていない部分もある。	資格試験はある程度決まったパターンがあり、知識が身につけていけば合格はさほど難しいものではない。より具体的に個々の状況把握に努めていく。	3	
評価は適切な方法で行われているか	4			4	
目標に到達しない生徒に対し適切なフォローが行なわれているか	2	不登校生の場合、精神的な面で課題を抱えている子もおり、学習面でのフォローまで到達できていないケースもある。	教育と医療との範囲をしっかりと分別し、生徒への適切な対応を行う。	2	
進級、卒業の判定審査は適切に実施されているか	4			4	

3. 生徒受入

評価項目	評価	現状の問題点	改善のための方策	評価	関係者の意見
生徒募集のための資料の表現・内容並びに募集活動の方法・時期は適切か	3	生徒募集のメインは、パンフレット・チラシ・HP・中学校訪問であるが、数年に渡り、見学者・入学者が少ない地域がある。その原因がはっきりとはつかめていない。	見学には来たが、入学に至らなかった生徒の理由が知りたいところではあるが、聞き出すのは中々難しい。	3	価値観の変化が学校選びにも表れてきている。これまで王道（公立高校⇒国立大学⇒一流企業）と呼ばれていた流れに変化が出始めている。普通に公立高校に合格できる学力がありながら、通信制高校に舵を取る生徒もある。流行りばかり追っただけではいけないが、カリキュラムは時代に合わせて柔軟に考えていく必要がある。インスタなどの SNS の利用については研究も必要ではあると思う。
入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	4			4	
募集要項の内容は適切か	4			4	
学校見学会の時期、内容は適切か	4			4	
入学者選抜の時期、方針、方法は適切か	4			4	
志願者状況、定員充足率はどうか	2	昨年度よりは増加したが、卒業生徒分を補うまでには至らなかった。全校生徒数としては微減となった。	見学者数は少なくなったが、入学に至る生徒がもうひとつ伸びなかった。「毎日通わなければならない学校」というニュアンスをどう表現していくかが課題。	2	
中途退学の理由・実状を適切に把握しているか	4			4	

4. 教職員組織

評価項目	評価	現状の問題点	改善のための方策	評価	関係者の意見
専任教員は設置基準を満たしているか	4			4	<p>大学への新卒募集だけでは現実的ではなくなった。新卒での応募がほとんど来ない。仮にあったとしても内定を多数もらう中で学校が魅力的なカードになっている可能性は低い。転職希望者に対するアプローチも必要不可欠であろう。</p> <p>全国的に教員の働き方へのイメージが悪いが、本学では世間で言われているような状況ではない。そのことがなかなか理解されていないのでは。</p> <p>若い教職員へのケアやフォローが絶対的に必要である。</p>
専任教員1人あたりの担当科目時間数は適切か	4			4	
教職員の業務分掌は明確になっているか	4			4	
教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	3	管理者が定期的に各々の教員と面談をし、資質向上に向けて具体策を助言しているが、まだ不足も目立つ。	継続的に行っていくしかない。	3	
教職員の資質向上のためのシステムは適切に構築されているか	3			3	
職員は業務が滞りなく遂行できる人数を雇用しているか	4			4	

5. 施設・設備等

評価項目	評価	現状の問題点	改善のための方策	評価	関係者の意見
教室は学習を行うのに十分な面積を有しているか	4			4	ここからしばらくは維持管理への意識も高めていく必要がある。
実習室は実習を行うのに十分な面積を有しているか	3			3	
実習設備は整備されているか	3	理科実験室・家庭科室などが望まれるが、現状としては困難。	安全面等を第一に考え、可能な範囲で整備していく。	3	
教室・実習室の管理は適切に行われているか	4			4	
生徒が自学自習できる教室を有しているか	4			4	
保健室は適切に整備されているか	4			4	
教育用機器備品は整備されており活用されているか	4			4	
職員室の管理は適切に行われているか	4			4	
事務室の管理は適切に行われているか	4			4	

6. 生徒生活支援

評価項目	評価	現状の問題点	改善のための方策	評価	関係者の意見
生徒と相談する体制が整備・機能しているか	4			4	災害に対する備えも決して十分とは言えないが、不審者への備えと対応が遅れを取っている。昨今の社会情勢を鑑みても対岸の火事ではられない。
各学校行事について、適切な事後反省を行っているか	4			4	
防犯・防災訓練の実施等、不法侵入・災害に対する整備は万全か	3	巨大地震が起きた場合、災害対策が万全とは言い切れない。	少しでも想定外を減らし、常に危機意識を持つ。	3	
進路活動に関する支援が整備され、機能しているか	3	生徒の特質上、経済的に進学が無理となった場合、企業への就職内定に至らないケースがある。	それぞれの価値基準があるので、新卒で内定、という事が全てではないが、社会とのつながりを求める姿勢は育てていきたい。	3	

7. 管理・運営

評価項目	評価	現状の問題点	改善のための方策	評価	関係者の意見
消防計画、学校安全計画等は適切に整備されているか	4			4	引き続き、意識を高めていく必要がある。
個人情報保護法を遵守しているか	4			4	
セクシャルハラスメントに対する防止・対応策が整備されているか	4			4	

以上、本校の教育研究活動等の状況について報告します。

静進情報高等専修学校自己点検・評価委員会 委員長